



2022 年度
第 26 号

体育市民連帯 ニュースレター

1
体育市民連帯が
20 周年を迎えました
創立 20 周年記念行事



2
崔スクヒョンを失っても
それが「隠蔽」なのか
まだ分からないんですか？



3
スポーツ倫理センター
韓国体育大学
重量挙げ部暴行
直接調べる



4
「見る体育」
と
「する体育」



5
体育界の
反腐敗
清廉文化
拡散へ



大韓民国スポーツの

根本的变化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？



체육市民連帶が 20 周年を迎えました。

継続的に後援し活動していただいた체육市民連帶会員の方々に感謝します。
체육市民連帶が迎えた 20 周年の意味は、より一生懸命走れという励ましにします。
選手たちは人権に優しい環境と文化で楽しく運動し、勉強しなければなりません。
暴力と性的暴力、日常的統制、学習権侵害など人権侵害から抜け出すべきです。
人権侵害の根本的な原因となるスポーツ界の構造的問題を变化させなければなりません。
指導者たちは、安定した身分が保証され、自分で人権を守るべきです。
체육団体、協会は既得権を降ろして变化を主導しなければなりません。
체육市民連帶はその道にいつも一緒にします。

2022. 07. 02

체육市民連帶創立 20 周年記念行事



崔スクヒョンを失っても、それが「隠蔽」なのかまだ分からないんですか？



取材していると、時には思わず事実を簡単に確認する場合がある。最も敏感で内密な問題だと思った部分を相手が先に打ち明ける時がその一つだ。働く立場ではありがたい。隠すと思った事実をすらすら話す取材源を嫌う理由はないからだ。しかし、一方では心が痛む。該当事実が深刻な問題である場合には、それだけ韓国社会がその問題を大したことはないと考えているという意味であるためだ。

韓国体育大学校（韓体大）重量挙げ部で発生した暴行事件取材する時も同じ経験をした。チェ某重量挙げ部コーチが寮で学生たちに暴行し、これによって警察に告訴されたという内容を取材しながら韓体大側に連絡した。生徒たちに告訴取り下げなどを要求する「組織的隠蔽の試みがなされている」という話を聞いたが、学校で簡単には言ってくれない内容だと考えた。

ところが実際に連絡がつくと、韓体大側は告訴取り下げの話から切り出した。韓体大のチョ・ジュンヨン教務処長は「学生、保護者の方々と担当指導教授が接触してできるだけ合意し整理しようと努力している。私も学校代表として保護者の皆様にお会いし、学生たちに会ってできるだけ静かに処理してほしいという考え」と話した。「学生たちの立場ではそれが懐柔、圧迫と感じられるのではないかと問い返すと「今の時代がこのような時代なのにそんなことが可能か」とし「隠蔽の試みでは絶対はない」と答えた。

約2年前、故崔スクヒョン選手がスポーツ暴力のために自ら命を絶った時も、似たような隠蔽の試みが他の同僚たちを相手に果てしなく行われた。残った同僚たちは加害者、加害者家族、他の先輩などに引き続き電話と携帯メールで圧迫を受けた。その時も隠蔽の試みは銃や刀を突きつけて行われなかった。「静かに解決した方が良いのではないかと」、「私たちにも過ちはないか」というふうだった。彼らもこれを説得だと思った。

崔スクヒョン選手を失ってから、韓国社会はそれを「隠蔽」と呼ぶことで合意した。それで国民体育振興法にスポーツ指導者はスポーツ暴力などを知った時、関係機関に申告する義務があるという「義務申告」規定を用意した。いわゆる「崔スクヒョン法」の核心条項だ。法施行から1年が過ぎたが、韓国最大エリート体育の産室といわれる韓体大は、崔スクヒョン法の内容さえ知らないようだった。そうでなければ、法違反の事実さえそのように記者にすらすら話すことができたのだろうか。

崔スクヒョン法が有名無実化したのはスポーツ界全般の問題である可能性が濃厚だ。昨年9月、慶尚北道醴泉イヒョチオンにある中学校で先輩アーチェリー選手が後輩に弓を射る事件が発生したが、被害者家族が暴露してメディア報道が出た後になって事件に対する調査が始まった。スポーツ人権研究所はこの当時「学校と指導者が国民体育振興法に違反した」とし「より根本的な範囲と単位で調査と対応がされなければならない」と指摘した。しかし、問題は忘れられ、9ヵ月ぶりに再び浮き彫りになった。

韓体大の話聞いたスポーツ暴力被害者たちは「崔スクヒョン選手が去って2年が過ぎたが、依然として変わっていない」と嘆いた。当時、事件取材した記者として面目がなかった。簡単に書かれた記事も、時には恥ずかしいことになる。それが全く変わっていない韓国社会の素顔を再び見たのならである。

出典：<https://www.hani.co.kr/arti/opinion/column/1048929.html>

03 ハンギョレ 2022. 06. 30

スポーツ倫理センター、「韓国体育大学重量挙げ部暴行」直接調べる



スポーツ倫理センターが韓国体育大学校（韓体大）重量挙げ部暴行を直接調査する。スポーツ倫理センターの関係者は30日、〈ハンギョレ〉との通話で「マスコミ報道後、韓体大から重量挙げ部暴行に対する申告を受け付けた」と明らかにした。これを受け、スポーツ倫理センターは該当事件の調査に乗り出す。

先立って26日〈ハンギョレ〉は韓体大が学内重量挙げ部のチェ某コーチが学生たちに暴行したという警察告訴が受け付けられるや関係機関に申告せず、むしろ学生・保護者に告訴取り下げを要求するなど事実上隠蔽を試みたと報道した。

「崔スクヒョン法」（国民体育振興法）によりスポーツ指導者はスポーツ暴力を知った場合、スポーツ倫理センターなど関係機関に直ちに申告する義務がある。このため、韓体大が学生たちに告訴取り下げを要求したのは法の趣旨に反するという批判も出てきた。

報道以後、申告が受け付けられたが、依然として国民体育振興法に隙間があるという指摘もある。現場では依然として直ちに申告義務がきちんと守られていないためだ。文化連帯のハム・ウンジュ執行委員は

「崔スクヒョン法上、即時申告義務で『直ちに』の期間を具体的に明示する必要がある」と話した。

スポーツ倫理センターは体育界から独立した位置でスポーツ界の人権侵害および不正を調査するために作った機構だ。文体部スポーツ不正申告センター・大韓体育会クリーンスポーツセンター・大韓障害者体育会体育人権支援センターなどに分かれた機能を一元化し、2020年8月にオープンした。

出典：https://www.hani.co.kr/arti/sports/sports_general/1049138.html

04 スポーツソウル 2022. 07. 05 高ジンヒョンの窓と槍

「見る体育」と「する体育」



変化は慣れからの脱却である。変化が言葉のように容易でない理由は、不便さを乗り越えなければならないためだ。韓国体育のパラダイムに初めて有意義な変化が感知されている。「見る体育」から

「する体育」への変化、遅いが明らかなその流れを感じることができ、嬉しい限りだ。「見る体育」が頭で楽しむことなら「する体育」はすなわち体でする体育だ。体育本来の価値回復という点で望ましい変化と言わざるを得ない。

4日、京畿道高陽市農協大学校で幕を閉じた「2022NH農協銀行オールワンアマチュアテニスオープン」は韓国体育のパラダイム変化を垣間見ることができる良い舞台だった。およそ1000人余りのテニス同好人が参加した同大会を通じて、韓国体育の明るい未来と肯定的な変化を読み取ることができ、嬉しかった。専門選手たちの技量と比べることはできないが、彼らの表情一つ一つに喜びと幸せ、そして情熱が溢れ、体育本来の価値が何かを十分に感じて残った。特に、今大会で確認した鼓舞的な変化は、若年層の体育参加度が目立って増えたという点だ。同好人大会にいわゆるMZ世代が大挙参加した事実は、望ましい体育

生態系構築という点で大きく歓迎された。これまで生活体育は中・壮年層が中心になったが、若年層の流入が加速化すれば体育の土台をはるかに強固にすることができるためだ。

韓国体育の従来のパラダイムは、少数精鋭の専門選手を強いトレーニングで育て、国際大会で優秀な成績を収める目標に集中した。体育の国際競技力、これ以上生命力を尽くしたとは言えない。競争は体育では決して捨てられない価値だからだ。ただ、社会の進歩と歴史の発展を考慮し、体育でも多様性の価値を真剣に考えなければならないというのが専門家たちの一様な主張だ。

韓国体育のパラダイムは、もはや限界状況に直面している。出生率低下による人口減少は、底辺の薄い専門体育の基盤を揺るがす衝撃波として作用して久しい。したがって、韓国体育のパラダイム変化は、もしかしたら避けられないのかもしれない。そのようなパラダイム変化の基本骨組みがまさに新しい体育生態系の構築だ。基盤を丈夫にし、底辺を広げるために専門体育と生活体育、そして学校体育が一つになる新しい体育生態系を構築しなければならないという事実は、もう誰も否認しない。結局「見る体育」から「する体育」へのパラダイム変化が韓国体育が指向しなければならない新しいビジョンであるわけだ。

韓国体育が「する体育」より「見る体育」に慣れてきた理由は、体育が手段的価値に埋没したためだ。近代体育の流入期である日帝強占期では体育が民族的鬱憤を吐き出す道具として活用され、圧縮成長期では体育が国家の地位を向上させる有用な手段として服務した。今や世の中は変わり、体育も本来の価値を回復しなければならない時代状況に直面している。

体育はこれ以上「体のパフォーマンス」に限られるものではない。体と頭は互いにつながった一つの「共同運命体」という話は説得力がある。体を使うようになれば創造的想像力が自然に生まれるのもまさにそのような理由からだ。「自分がやればロマンス、他人がやれば不倫」のようなダブルスタンダードが蔓延している韓国社会の慢性病も「体の哲学」で十分に治癒できる。世の中を頭で思惟することに慣れている人々は、自分の考えだけが正しいと考える傾向が強い。「体の哲学」を軽んじる社会が「ダブルスタンダード」という異常気流に簡単に陥る理由だ。世の中は頭で思惟するのではなく、体で経験して理解しろという言葉をじっくり考える必要がある。そうなれば、世の中はもっと平和で幸せになれる。体が変われば人が変わり、人が変われば世の中が変わる。韓国体育が「見る体育」から「する体育」に変わらなければならない理由がまさにここにある。

出典：<http://www.sportsseoul.com/news/read/1139459?ref=naver>

05 コリアンスピリット 2022.07.05

体育界の反腐敗・清廉文化拡散へ



体育界が腐敗と性暴力、人権侵害など否定的な文化をなくし、清廉度を高めるための多様な努力に乗り出した。

大韓体育会は今年の総合清廉度優秀機関を目標に多角的な清廉・反腐敗政策の推進に乗り出した。これと共に、全国市道体育会長協議会と協約を結び、清廉文化の拡散に向けて力を合わせることにした。

大韓体育会、総合清廉度2等級目標に清廉・反腐敗政策を推進

大韓体育会(イ・ギフン会長)は総合清廉度優秀機関への跳躍を目標に「幸せなスポーツで、未来を開く体育会」ビジョンの下、2022年度清廉・反腐敗政策を推進する。△反腐敗・公正改革達成△迅速かつ積極的な腐敗遮断△国民の声を基盤に共感する清廉文化拡散という3大戦略の下、12大重点課題と29の細部課題を推進する計画だ。

去る5月、利害衝突防止法施行により利害衝突防止制度運営指針を制定し、自主的利害衝突防止担当官を指定して公職者が自身と私的利害関係のある職務を回避しなかつたり自身の職務と関連した情報で私益を取れば過怠金と処罰、不当利益還収など制裁を加えるよう制度の運営基盤を構築した経緯がある。

今後、高位職反腐敗・公正実行力強化のために「5ヶ核心課題約束と実践」というキャッチフレーズと共に△八百長根絶政策基盤構築△会員市道体育会清廉社会協約締結△役員職務清廉契約制度運営△清廉公職者インセンティブ付与△全職員参加型清廉協議体「清廉トークトーク」設置・運営など5ヶ核心課題を公約し集中的に実践する予定だ。

イ・ギフン会長は「機関長をはじめとする高位職が率先して清廉政策の実行力を強化し、積極的な参加を通じて実効性を高める」とし、「体育会が推進中の色々な政策が国民が実際に共感できるよう最善を尽くす」と伝えた。

体育界、清廉文化拡散のための清廉社会協約締結

大韓体育会はこれと共に全国市道体育会長協議会と6月体育界清廉文化拡散のための会員市道体育会清廉社会協約を締結した。大韓体育会と全国市道体育会は△国民權益委員会制度改善勧告にともなう反腐敗清廉文化定着および拡散に対する協力△利害衝突防止制度運営コンサルティング参加△「訪ねる職場運動競技部清廉学校」参加などを履行していくことを約束した。協約期間は1年であり、協約終了に対する合意がない限り1年ずつ延長される。

大韓体育会は今年、公職者の利害衝突防止法施行と新政府の「公正と責任に基づいた力量ある公職社会実現」という国政課題に歩調を合わせ、今回の清廉社会協約を契機に体育会総合清廉度向上および脆弱部門の改善に努める計画だ。

大韓体育会、腐敗・公益申告の実効性強化キャンペーン

大韓体育会は7月まで腐敗・公益申告運営および実効性強化のための各種キャンペーンを実施する。今回のキャンペーンは△腐敗行為および公益侵害行為の申告と△利害衝突防止制度の実効性ある運営のために用意された。

大韓体育会は5月、第51回全国少年体育大会期間中「大韓体育会長と共にする『一度に学ぶ』清廉プロギング(訳注:plogging=ランニングをしながらゴミを拾う運動)キャンペーン」を実施し、スポーツ八百長腐敗行為申告および申告者保護に対する対国民認識向上活動を実施した。また、大会期間中に学生選手と保護者を対象に腐敗・公益申告処理および申告者保護制度認識調査を実施し、誰でも八百長と関連した腐敗・公益申告がいつでも可能であることを案内した。合わせて、大韓体育会はキャンペーン期間に腐敗・公益申告制度と関連した多様になった反腐敗法令改正事項を社規に反映し、体育会清廉・反腐敗制度が支障なく履行されるよう規範力確保にも努める方針だ。

スポーツ倫理センター、体育人を対象に法廷義務教育を提供

スポーツ倫理センターが体育人なら必ず履修するよう法で規定された教育を始めた。倫理センターは「国民体育振興法」により、11月まで<性暴力など暴力予防教育>等、3種類の法定義務教育を提供する。

〈性暴力など暴力予防教育〉は選手と指導者、審判、体育団体役職員など体育人ならば毎年1時間以上義務的に受けなければならない教育で、今年はオンライン講義だけでなく、高齢者や低学年学生、障害体育人など脆弱階層を倫理センター人権講師が直接訪ねて教育するオフライン講義形態でも進行される予定だ。倫理センターは体育人の便宜のために今年上半期と下半期にそれぞれ1回ずつ該当教育を推進し、下半期は8月1日から9月16日まで進行される。受講対象者は上・下半期教育期間中にいつでも「国民体育振興公団 K-SP0 エデュサイト」に接続しオンライン講義を受講すれば良い。

スポーツ倫理センター、オンライン教育サイト開設

一方、スポーツ倫理センターはオンライン教育サイトを開設し、体育人にスポーツ倫理教育映像を提供する。倫理センターは5月から教育専用サイトである「スポーツ倫理ラーン(LEARN)」運営を始め、体育人がより簡単に「法定義務教育」を受講できるよう支援する。

体育人は会員加入から教育受講申請、教育受講、履修証発給までウェブサイトで「ワンストップ」ででき、体育団体の教育担当者はウェブサイトに接続して所属体育人の教育履修現況をリアルタイムで確認することができる。また、倫理センターが主管する法定義務教育である「(性)暴力予防教育」人権講師派遣申請もウェブサイトを通じて可能だ。オンライン申請で派遣された人権講師に講義を受講する場合、国民体育振興法上の義務教育を修了したと認められる。

教育は〈性暴力など暴力予防教育〉と〈体育指導者再教育〉など2つの課程が提供される。教育受講を希望する体育人は教育サイトに接続して会員加入後、本人が履修しなければならない講義を選択して受講できる。

大韓障害者体育会スポーツ人権オーダーメイド型教育開催

大韓障害者体育会は7月4日と5日の2日間、ソウルオリンピックパークテルで2022年度スポーツ人権講師力量強化のためのスポーツ人権オーダーメイド型補修教育を行った。今回の教育は2022年下半年から全国体育団体従事者および市道別登録人員を対象とするスポーツ人権教育が義務化したことにより大韓障害者体育会で計画した教育事業であり、全国スポーツ現場で活動予定のスポーツ人権教育講師を対象とするオーダーメイド型教育だ。

教育課程は2科目（障害者スポーツの理解、障害感受性）で、障害者スポーツ分野および障害者人権分野で長年のノウハウと講義経験のある専門家を講師に招き、32人の申請者が1次、2次に分かれて教育を受けた。

出典：<http://www.ikoreanspirit.com/news/articleView.html?idxno=68056>

06 週刊スポーツニュース

ドイツサッカー協会長「カタールW杯、最も議論の多い大会になるだろう」

<https://www.yna.co.kr/view/AKR20220705111000007?input=1195m>

「ウォラベルを持ってください」…九老デジタル団地に多目的体育館を建設

<https://www.yna.co.kr/view/AKR20220705069900004?input=1195m>

「また日常に」…全北教育庁、学校体育施設全面開放

https://newsis.com/view/?id=NISX20220705_0001931752&cID=10808&pID=10800

龍仁市、大韓体育会地方体育振興事業公募選定

<https://news.mt.co.kr/mtview.php?no=2022070509442143451>

大韓障害者体育会、スポーツ人権オーダーメイド型教育開催

<https://www.newsl.kr/articles/?4733103>

泰安郡、体育センターなど生活密着型スポーツインフラを大幅に拡充

<https://www.yna.co.kr/view/AKR20220704038200063?input=1195m>

「また爆発した！」セクハラ波紋」KARA カン・シンホ発足「悪材料」…5日賞罰委開催

<http://www.newsway.co.kr/news/view?tp=1&ud=2022070409545267702>

大韓体育会、2022 大韓民国スポーツ英雄候補者推薦

<https://www.inews24.com/view/1496990>

[以心伝心]エリート体育とスポーツクラブ文化

<http://www.joongboo.com/news/articleView.html?idxno=363548926>

体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。

私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。

皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。

体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com

週刊ニュースレターバックナンバー（資料室） <http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html>